

「柏崎の橋」

15 折居橋

鵜川地区の女谷と折居の境にあり、国道353号線が鵜川を横断する、女谷から折居への入口となる橋である。

折居は明治34年まで折居村であり、古くは折居谷村と称したという。「越後の地名」によると「地藏峠から降りて着いたばかりの村を表わす地名である」とされる。

文化13年(1816)の「折居村指出明細帳」に「鵜川巾八間 橋を懸年中通路仕候」「橋五ヶ所内 字は餅糰 板橋 阿相島 壺本橋 村中 壺本橋 木まき口 壺本橋 家下 壺本橋」との記述がある。

「鵜川の話」に「この餅糰にある板橋というのが折居橋であると思います」とあり、折居橋あたり地元の呼び名「大橋場」も「他の壺本橋より大きい板橋であることに由来しているのでしょう」とあるが、「古老の話では、当時の橋は石を積んだ



折居橋

(写真に見る鵜川の郷土誌(五)より)
昭和40年コンクリート製の橋ができるまで使われた木の橋。脇には水車小屋があった。



現在の折居橋

この橋を越えると女谷から折居に入る。

橋脚の上に杉の丸太を二つに割ったものを架け渡した橋で、人がようやく通ることができる程度のものであり、牛馬は川を渡ったということです」ともある。

時代の変遷により丸太橋から木橋へと改善された橋は昭和39年、この道が黒姫と松代をつなぐ県道へ昇格したのにともない工事費1833万8千円が投入され、コンクリート製の橋に架け替えられた。

当時は黒姫村だったが、昭和40年4月9日、周囲に雪が残る中で行われた竣工式は村長と村民3百余名の他、柏崎市長・高柳村長も出席する盛大なものだった。

現在建設途中の鵜川ダム完成時には、このコンクリートの折居橋は水没することとなる。

●参考資料

「写真に見る鵜川の郷土誌(五)」(224 フセ) 布施一著
「鵜川の話」(224 タカ) 高橋義宗著
「鵜川の話Ⅱ」(224 タカ) 高橋義宗著
「史談うかわ第6号」(224 ウカ) 鵜川郷土歴史研究会
「越後の地名」(292 ウエ) 植木昭吾著
「柏崎日報」 柏崎日報社